活動報告

Family Medicine Interest Group 交流会 開催報告

A Report on the Exchange Meeting for Family Medicine Interest Group

平田まりの¹⁾ 吉川亜佐子²⁾ 吉本 尚³⁾

Marino Hirata¹⁾, Asako Yoshikawa²⁾, Hisashi Yoshimoto³⁾

要 旨

2016年6月、第7回プライマリ・ケア連合学会学術大会において、Family Medicine Interest Group に代表されるようなプライマリ・ケアを学ぶ学生サークルの交流会を、学生自らが開催した。国内外の8団体から団体の活動、課題、今後の展望について発表があった。学生のプライマリ・ケアに対する興味や、活動へのモチベーション向上に有用であり、今回のような交流会を今後も継続することが望まれる。

Keywords : Family Medicine Interest Group, 学生 (student), プライマリ・ケア (primary care)

1. はじめに

米国では、家庭医療に興味関心を持つ公式・非公式の学生団体は Family Medicine Interest Group (以下、FMIG) と呼ばれている。日本でも、日本プライマリ・ケア連合学会 学生・研修医部会をはじめ大学ごと、地域ごとなどの地域医療・家庭医療団体・サークルが存在する。日本では、他の活動の報告を知る機会が不足すること、周囲からの援助を受けられないことなどから活動の運営が困難に陥ることも少なくない。今回、日本においてプライマリ・ケアを学ぶ活動を行っている学生を対象に、相互の活動を学びモチベーションを高め地域ごとの活動を活発化することを目的とした交流会を米国 FMIG と共同開催した。開催にあたり、参加者の背景や団体運営に関する悩みを明らかにするための事前アンケートを行った。事前のアンケートの結果を含め本企画について報告する。なお、日本の地域医療サークルや家庭医療サークルも FMIG として表記する。

2. 方 法

開催に先立ち、本企画に事前申し込みを行った72名の学生、研修医を対象に事前アンケートを行った。

調査項目は「今回の企画に求めるものは何か」「今大学サークル・学生団体に所属して活動しているか」「所属団体ではどのような活動をしているか(講義/議論、地域活動、病棟実習、その他から複数選択)」「所属団体の抱えている悩みは何か」「自由記載」の5項目とした。

FMIG 交流会は、第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会のインタレストグループとして開催した。参加者は112人(内訳:医学生98名、看護学生3名、医師8名、学術大会実行委員会スタッフ3名)であった。交流会は2時間あり、最初の90分間では、国内外のFMIG、地域医療サークル8団体から活動報告が行われた。各団体発表7分、質疑応答3分である。発表を行ったのは、Oregon Healthcare Science University (以下、OHSU) の FMIG Oregon, University of Hawaii (以下、UH) の FMIG Hawaii, FMIG 宮崎、秋田大学 医療系サークル MedicA, 高知大学 ARMS, 大阪どまんなか、IFMSA-Japan 公衆衛生に関する委員会(地域医療ツアープロジェクト)、日本プライマリ・ケア連合学会 学生・研修医部会の8団体であった。各団体、活動目的、内容、運営の課題、今後の展望について発表した。発表後、20分間ディスカッションの時間を取り質疑応答を行った。

1) さいたま赤十字病院初期研修医

2) 自治医科大学医学部医学科6年

3) 筑波大学医学医療系地域医療教育学講師

著者連絡先: 吉本 尚 筑波大学医学医療系地域医療教育学 [〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1]

email: hisashiyoshi@md.tsukuba.ac.jp

(受付日: 2017年4月3日, 採用日: 2017年9月20日)

©2017 日本プライマリ・ケア連合学会

表 1 各団体の発表内容

団体名	活動目的	活動内容	運営の課題	今後の展望
OHSU	初心に立ち返る機会をもち、ロールモデルとの交流を通してリーダーシップを高める	①②臨床スキルの向上・講義、③社会奉仕活動、④仲間との関わり、メンターシッププログラム	カリキュラムとの調整、学生リーダーの引継ぎ	メンターシップの継続、学生の興味や展望に合わせた活動内容の吟味
UH	継続的なケア、地域支援活動、患者教育の大切さを学び、そして家庭医への道を歩む学生を応援する	①②臨床スキルの向上・講義、③乳癌啓発運動、タバコ撲滅教室、ホームレス支援活動 ④家庭医・研修医との懇談会	地域活動での関係者との調整する学生の負担が大きい	主体的にかかわることのできる地域での活動の機会を増やす、学生の専門的な成長の機会を促進
FMIG 宮崎	医学の勉強のモチベーションを維持し、自主性が高くジェネラリスト志向の学生の育成	①勉強会（学生同士・外部講師）、病院実習、③地域の他業種勉強会への参加、地域活動	現状で課題はないが、50人の部員みんなで力を合わせて活動していきたい	まだ設立3ヶ月前後なので、始めた活動を継続・改善していきたい
秋田大学 医療系サークル Medica	秋田の医療問題に取り組む、将来活躍できる医療者の育成	②シミュレーション実習③老人ホーム訪問、介護研修会、地域交流会	運営幹部の負担が大きい、地域の人との活動の調整	シミュレーションのさらなる有効活用、多職種・他学部学生を巻き込んだ活動の実施
高知大学 ARMS	学生が中心となり企画し地域の人々との交流を通して、地域へのアプローチ方法を学ぶ	③夏休みに3泊4日で馬路村に滞在し、子供へ勉強を教えたり子供から遊びを学んだりする	活動を維持し学生・地域の人々双方にいい影響を及ぼす内容の改善	活動の継続・向上 地域の子供たちのキャリア教育の実施、他地域での開催
大阪どまんか	自発的に必要な能力を身に着け将来に目を向ける学生の育成	①複数の外部講師による講義を受ける1日を行った勉強会	全国的な広報・集客や、今後の運営資金と活動内容の調整	定期的な勉強会の開催と内容や質の向上
IFMSA-Japan 公衆衛生に関する委員会（地域医療ツアープロジェクト）	地域医療やプライマリ・ケアの魅力を学ぶ	① Skype での定期的ミーティング、ツアーに向けた勉強会、③地域ツアー（3泊4日）、④報告・反省会	運営のマンパワー不足、高額な参加費や交通費	効果的な広報の実施、参加費に見合う企画作りや交通費補助の獲得し、企画を改善していく
日本プライマリ・ケア連合学会 学生・研修医部会	わくわくとつながりを大事に、よりよい医療を行う仲間と成長する	①②勉強会、地域病院実習、家庭医療学夏期セミナー④懇親会	地域ごとによる活動のばらつき、実習企画や勉強会の運営資金の確保	全国で定期的に質の高い勉強会を開催し、多くの学び場を作る。

活動内容は、FMIG Manual の記載に合わせて²⁾、以下の通りとした；① Lectures/Discussions、② Clinical Skills (Procedures Workshops)、③ Community Service、④ Social：同じ興味を持つ学生同士の親交を深める

企画後に本企画参加者を対象に事後アンケートを実施し、52名から回答を得た。「企画前後のプライマリ・ケア（地域医療、総合診療、家庭医療）についての興味の変化」と「自由記載欄」を設けた。

事前・事後アンケート調査は無記名の自記式記入質問票であり、目的を丁寧に文章で説明し、回答をもって同意を得た。

3. 結果

事前アンケートの結果

32名（回収率44%）から回答を得た。回答者のうち、プライマリ・ケアに関連する大学サークルまたは学生団体に所属しているのは18人（56.3%）であった。所属団体の活動の中で、回答者が参加している内容として、講義/議論が11人、地域活動10人、病棟実習8人、その他4人であった（複数回答可）。所属団体が抱

えている悩みとしては、「後輩への継承・資金のこと」、「活動への参加者の少なさ」、「企画のマンネリ化」、「主要メンバーがいなくなった際の活動の存続支援や導き手がないことで事業が進まない事、すべき事を見失う事」、「活動日程等の調整が難しい」、「外病院や地域住民との関わる機会がまだ少ないこと」などがあげられた。

各団体発表の概要

各団体の発表内容を表1にまとめた。

ディスカッションの内容

ディスカッションではモチベーションの維持に関する質問がでた。発表者からは、幹部はうまく仕事を分担して行う、運営者自身のセルフケア、活動の充実化、引継ぎ時には自主性を重要視することを伝えるといった回答が得られた。

事後アンケート、参加者からのフィードバック

企画前後のプライマリ・ケアについての興味の変化は、「かなり興味が増した」が18名(34.6%),「興味が増した」が28名(53.8%),「変化なし」が4名(7.7%)であった。自由記載欄には、「他大学の活動が面白くやってみたいと思うことが見つかった」「自分の進みたい道やキャリアが見えてきて良かった」「閉鎖的な活動を見直すきっかけになった」「いつか自大学にもFMIGを創ることができたら、と思った」といった意見が寄せられた。

4. 考 察

FMIGの活動としてFMIG Manual²⁾において下記の4つのカテゴリーがあると述べている。

①Lectures/Discussions ②Clinical Skills (Procedures Workshops) ③Community Service ④Social: 同じ興味を持つ学生同士の親交を深める

AAFPに属するFMIG Oregon, FMIG Hawaiiは共通して上記4カテゴリーの活動を行っていた。ただし、その具体的な内容はFMIGごとに異なっていた。③のCommunity Serviceの違いが顕著であり、それぞれの地域の医療福祉の問題により焦点を当てて企画を考えられていた。

日本では、参加者が属している団体において、講義/議論が11人(61.1%), 地域活動10人(55.6%), 病棟実習8人(44.4%), その他4人(22.2%)の活動が行われており、Manualで示された4カテゴリーの分類が当てはまると考えられる。その中でも、すべての活動を行っているわけではなく、①②の活動が多く行われていることがわかった。今回発表していただいた日本の6団体のすべてで①が行われていたが、②のシミュレーション実習や病棟実習は4団体、③においてはFMIG 宮崎、秋田大学医療系サークルMedicA, ARMSの3団体のみであった。

①の勉強会やディスカッションは、学生中心に行われるものであり開催におけるハードルが低い。また、必要な知識を身につけるにあたり簡便な手法であり、「学びたい」学生のニーズに答えやすい。同じ興味を持つ学生が集う機会にもなりモチベーションの維持もしやすいという利点がある。一方で、知識や情報が少ない学生で勉強内容を決めることは困難が伴う場合もあることがわかった。一方で③の地域活動は、開催するために地域ニーズの把握、地域や学外の人との調整や準備の必要があるためハードルが高いと考えられる。地域活動を実施している5団体は、共通して地域の医

療福祉の問題に焦点を当て、目的、対象、活動内容を考えていた。5団体の企画に対する地域の人たちからの声はポジティブなものであり、学生の継続する意欲を向上につながっているようであった。サークル内の学生だけでなく地域の住民にも有用であることが活動の継続に重要であると考えられた。上記に述べた活動内容はFMIGの課題の一つであるが、それ以外にも活動資金の不足や参加者や部員の獲得、学生のモチベーションの維持・向上も課題であることがわかった。

本企画の課題として、ディスカッションの時間を十分に得ることができなかったことがあげられる。そのため、成功点、団体の問題点、その解決策などを十分考えることができなかった。また、サークルごとに抱えている問題は異なり、他の団体で成功しているものがそのまま適応できるとは考えにくい。ま学生が大学に戻った後も、変わらず継続のための努力・試行錯誤が必要になるであろう。また発表団体の数を多くしたために、発表時間が短くなりそれぞれの活動を理解するための情報、時間が不十分だった可能性がある。

本企画を通して、自分たちの活動を見直し改善していく方法を見つけ、活動のアイデアを得ることができた学生もいる。企画前後のプライマリ・ケアの興味は46名(88.4%)で増加している。今後活動を始めた、向上したいといった声も多く聞くこともできた。今後は課題や解決策の議論を深めること、具体的な方法や議論の結果を共有できるような体制の構築などが必要であろう。直接的に地域活動の活発化にはつながらないが、学生のプライマリ・ケアに対する興味や、活動へのモチベーション向上には有用であり、今回のような交流会を継続することが望まれる。

謝 辞

FMIG 交流会の運営に助力をいただきました、井上陽介医師、高橋麻衣子医師、玉井杏奈医師、(敬称略・五十音順)と学術大会運営事務局、そして発表を下さった各団体発表者の皆様に厚く御礼申し上げます。

利益相反

本論文に開示すべき利益相反はありません。

文 献

- 1) 米国家庭医療学会. [not revised; cited 1 April 2017]. Available from: <http://www.aafp.org/medical-school-residenc>

y.html

- 2) 米国家庭医療学会. Family Medicine Interest Group Student Leader Manual. [not revised; cited 1 April 2017]. Available from: <http://www.aafp.org/dam/AAFP/docu>

ments/medical_education_residency/fmig/fmig-manual.pdf